

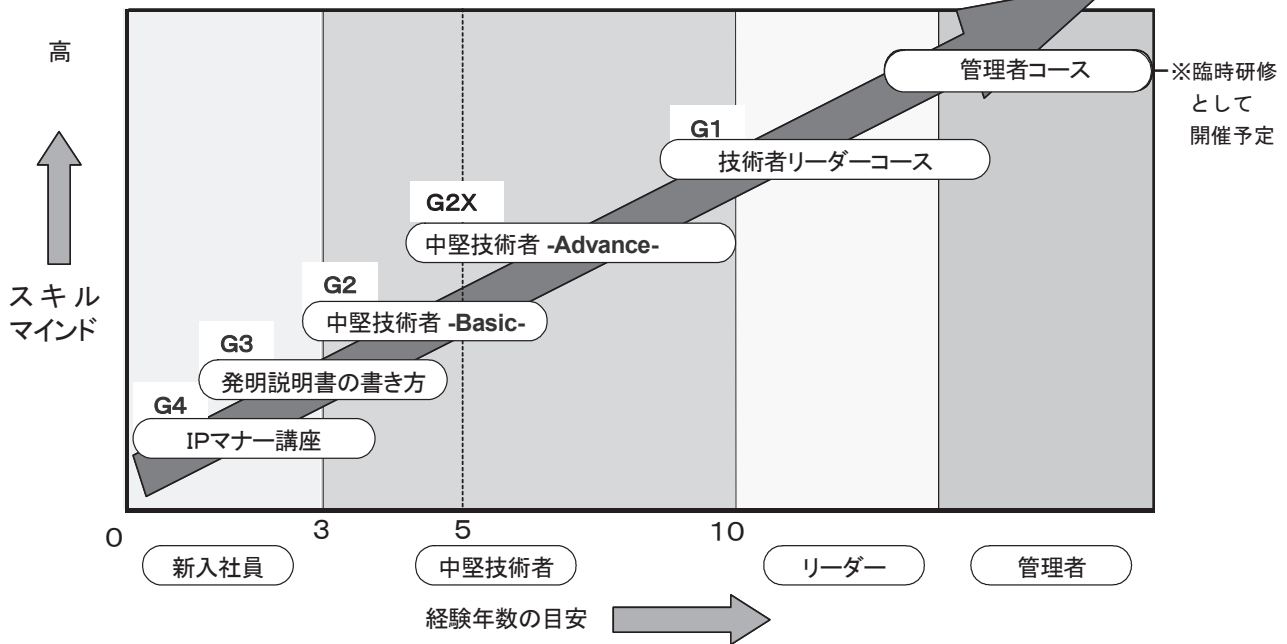
G技術部門向けコース群（東海）

技術部門向けコースは、体系化された定例コース群として開催されております。

ここでのコース設定は、下図に示す体系に沿って設定されています。

【基本的な考え方】

- 日本知的財産協会ならではの実務的な技術者教育
- 企業での階層(経験年数)に対応したコース設定



今年度は、東海地区で次の2コースを開催します。

《開催コース》

- ・G1 技術者リーダーのための知的財産講座
- ・G2 中堅技術者のための知的財産 Basic 講座

《受講対象者》

- ⇒ 技術者リーダー
- ⇒ 技術職経験が3～5年の技術者

また、関東と関西では、上記の2コースに加え、

- ・G2X 中堅技術者のための知的財産 Advance 講座 ⇒ 技術職経験が5～10年の技術者
- ・G3 本質を考えた発明説明書の書き方演習 ⇒ 発明説明書作成経験が1～2件の方
- ・G4 技術系新入社員のためのIPマナー講座 ⇒ 技術系新入社員

を開催します。詳しくは、**関東** または **関西** の該当箇所をご覧ください。

G1E 技術者リーダーのための知的財産講座（電気・機械）

G1F 技術者リーダーのための知的財産講座（化学）

**G1E,F
とは？**

このコースの受講対象者は、研究、開発、設計、生産等の第一線で部下を指導しながら活躍されている技術者リーダーの方々で例えばテマリーダーやチームリーダー、主任と称されている現場の第一線で管理・監督に携わる方を言います。

このコースの狙いは、研究開発の成果を事業の成功に結び付けるために、技術者リーダーが知的財産に対する考え方や日頃から実践すべき事項を習得し、リーダーとして自らがどのように行動し、またどのように部下指導をすべきかを考えていくきっかけとすることです。

このコースでは、技術者リーダーの視点に立ったカリキュラムを、技術分野に応じた事例を交え、高い知見を持ち現場経験豊富な講師が講義します。

また、多忙な技術者リーダーの方が受講しやすいように2日間のコースとし、＜電気・機械＞と＜化学＞との技術分野に分けて開催します。

このコースを通じて最近の動向を踏まえ知財マインドや知財知識の更なるレベルアップを図り、技術関連部門の業績を一層向上させるきっかけ作りにもご活用ください。

【G1E】 研修会場：愛知県産業労働センター 募集定員：100名

開催日(2日間)		講義課目	講師
8/29(火)	午前	1. 事業と知的財産 2. 特許情報の活用	協和特許法律事務所 加藤 泰助 氏
	午後	3. まずは特許出願	コンサルタント会社代表 長谷川 治雄 氏 (新任)
8/30(水)	午前	4. 問題となる他社特許への対応 5. 事業活動での自社特許の有効活用	ソニー(株) 小野 賢一 氏 (新任)
	午後	6. 研究・開発活動と契約	弁理士 西野 卓嗣 氏

【G1F】 研修会場：愛知県産業労働センター 募集定員：40名

開催日(2日間)		講義課目	講師
9/4(月)	午前	1. 事業と知的財産 2. 特許情報の活用	協和特許法律事務所 加藤 泰助 氏 (新任)
	午後	3. まずは特許出願	コンサルタント会社代表 長谷川 治雄 氏
9/5(火)	午前	4. 問題となる他社特許への対応 5. 事業活動での自社特許の有効活用	東洋紡(株) 近藤 英二 氏
	午後	6. 研究・開発活動と契約	(株)大阪ソーダ 野田 康子 氏

1. 事業と知的財産

事業活動における知的財産が果たす役割を知り、事業を優位に導く研究・開発活動の進め方を理解する。また、知的財産活動における技術者リーダーの基本的役割を理解する。更に、事業活動に大きな変化をもたらしている知的財産を巡る最近の動向を知る。

2. 特許情報の活用

情報活用の大切さを認識する。また、情報活用において技術者が行う事項を知り、情報は「知る」だけでは不十分であり「行動する」アクションがリーダーに求められていることを理解する。

3. まずは特許出願

特許出願の目的を確認する。また、「強い権利」が持つ要件を知り、部下の発明創造を促す指導の大切さを理解する。更に、事業を支える発明に気づき、多角的な観点から出願に結び付ける知財部門との連携の必要性を知る。

4. 問題となる他社特許への対応

他社特許が事業に与える影響の大きさを特許権の本質や判例を通じ確認する。また、問題となる他社特許とはどのようなものか、更にその特許に対する対応を知り、併せて知財部門や法務部門等との役割分担を理解する。

5. 事業活動での自社特許の有効活用

事業活動を優位にする自社特許活用の意味を理解する。また、事業活動にとっての知的財産権の価値評価の重要性と観点とを知る。更に、侵害品の第1発見者としての役割とその処置とを理解する。

6. 研究・開発活動と契約

研究・開発活動に関する契約について、その役割、締結前の注意点、契約の遵守の重要性を知る。また、知財部門や法務部門との事前協議の必要性を理解する。

G2E 中堅技術者のための知的財産Basic講座（電気・機械）

G2F 中堅技術者のための知的財産Basic講座（化学）

G2E,F とは？

このコースは、事業部門や研究・開発部門の方であって技術職経験が3年～5年の方を対象としております。

このコースの狙いは、中堅技術者自らが技術成果を創出し、また事業実施に結びつけるために、日常的に実行すべき知的財産事項を何のためにどのように行うか、更にその注意点を知り、自らが主体的に実践していくきっかけとすることです。

このコースは、知的財産の基本事項を研究開発の流れと関連付けて講義し、＜電気・機械＞と＜化学＞との技術分野に分けてそれぞれ1日コースとして開催します。

会社内での技術者向け知財研修の事前研修としてもご活用いただけます。

【G2E】 研修会場：愛知県産業労働センター 募集定員：70名

開催日(1日間)		講義課目	講師
10/26(木)	午前	1. 研究開発テーマ選定時の特許情報活用 2. 後で困らないための他社特許の尊重	ブラザー工業(株) 桃崎 元博 氏
	午後	3. 事業を支える特許出願とその権利獲得	オムロン(株) 金本 径卓 氏(新任)

【G2F】 研修会場：愛知県産業労働センター 募集定員：40名

開催日(1日間)		講義課目	講師
10/27(金)	午前	1. 研究開発テーマ選定時の特許情報活用 2. 後で困らないための他社特許の尊重	東レ(株) 朝戸 久美子 氏(新任)
	午後	3. 事業を支える特許出願とその権利獲得	(株)カネカ 藤田 かおる 氏(新任)

1. 研究開発テーマ選定時の特許情報活用

技術や同業者の動向を知り、適切な研究開発テーマを選定していくための特許調査とその活用について、調査目的に応じた調査手段、調査結果の整理法、特許情報の活用と共有化等についてどのように行うかを理解する。

また、日常的な特許調査は、技術者自身の為でもあることを知る。

2. 後で困らないための他社特許の尊重

障害となり兼ねない他社特許を早期に見出し対応するため、特許請求の範囲の基本的な読み方と自社技術との対比の仕方、技術回避策の取り方、知財部と相談するタイミングやその仕方を理解する。

3. 事業を支える特許出願とその権利獲得

演習形式のG3コースで行っている発明の本質的な把握を講義形式で習得し、加えて群としての出願や事業化の観点を捉えた出願をどのように進めていくのかを理解する。

また、発明者として、出願後に判明した発明の重要性や技術変化を知財部に適切に伝達し、権利化段階に積極的に関与していく大切さを知る。